



仲良きことは…

「仲良きことは美しきかな」、文豪 武者小路実篤の言葉です。家族や親子、職場、友達等々、仲がよいことを否定する要素はありません。

では、「仲がよい」とはどんなことなのでしょう。

いつも一緒にいること、一緒に遊んでいること、もののやり取りをしていること、気軽に話せること…というようなことなのでしょう。

私が学級担任時代に学校でのクラブや委員会を選ぶ時のポイントとして「友達関係で選ばない」と言っていました。それは、いくら普段一緒にいるような友達でも「自分がしたいことは違う」からです。また、一人で、人前で発表したり発言したりする機会をクラスの子全員に年 1 回以上与えていました。それは、一人でやり抜かないといけない場面、自分の責任において物事にあたらないといけない場面が、将来きっとあると想定していたからです。

他者と協働することや協力することは、当然必要なことですし、不可欠なことです。しかし、自分が進みたい道に進む時、一人になることもあります。協働や協力という名の「依存」や「責任の所在の拡散」になっていては物事の成長は望めません。

周りの支援や協力を得ながらも、一人で最後までやり抜く経験をしておくことは、子どもの成長に必要なことのように思えます。

協働・協力する場面、一人でやり抜く場面、このどちらにも対応できる力は、子どもたちが成長した先の社会に求められる力になります。